

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201265		
法人名	株式会社 サワライズ		
事業所名	グループホーム あたご桜花		
所在地	福岡市西区愛宕2丁目19-6		
自己評価作成日	平成22年9月19日	評価結果確定日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あたご桜花は、地域の方々の要望があり平成17年に開所した。街中ではあるが、愛宕山の西に位置し自然にも恵まれている。地下鉄やバスなどの公共交通や、都市高速が近いので交通のアクセスも便利が良い。近くに系列の病院があり、急変時などには即、受診や入院などの対応が取れる連携になっている。施設課長が看護師で平日は常勤しており、休日や夜間でもオンコールに対処ができるようになっている。畑や花壇では、季節の花や野菜を共に植えたり、収穫を楽しむことができる。近隣には、保育所があり、お互いの行事などで交流を行っている。毎月行事を計画し、大きなイベント(室外でのお花見など)にはご家族の参加を勧めている。年に2回、バスハイクを計画し、りんご狩りなどの外出の機会も作っている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年10月13日		

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: 桜花棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・住み慣れた地で、穏やかに暮らしていけるような理念を構築している。定期的勉強会やミーティング時にも、実践に向けて確認を行っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の清掃活動や子供会の廃品回収、地域フェスタなどの行事に参加している。 ・当施設での行事(食事会)、地域運営推進会議や講習会に、近隣の方々をお招きし、交流ができています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域運営推進会議開催時に、地域住民の代表の方々から、町内の高齢者の状況等をお聞きし、意見交換を行っている。又、施設主催の各種講演会(認知症、権利擁護)等の開催時には、地域の方にも参加していた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議時は、外部評価や情報公開のことを参加者に報告し、評価後は改善点の内容やその計画もお知らせし、ご家族や地域の方へも協力を求めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域運営推進会議にて、施設の状況を報告している。又、必要時には問い合わせや相談を行っている。「権利擁護」の勉強会なども実施してもらっている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・勉強会で、身体拘束の具体例等を話し合い、全職員が理解し、取り組めるようにしている。 ・日中は、自由に出入りができるようにし、夜間のみ施錠を実施している。又、言葉での拘束についても職員間で話し合っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ビデオを借り勉強会で視聴後、日頃の自分が当てはまらないか等の話し合いを行っている。又、気付いた時は、管理者だけでなく職員間でも注意ができるようにしている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・役所担当者や包括支援センターに依頼をし、権利擁護についての勉強会を実施してもらった。その際は、地域の方、ご家族、同業者等にもお知らせし、一緒に学ぶことで支援に繋げている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居、退去にあたっては、事前に数回、本人やご家族と面談を行い、納得されるまで充分説明し理解してもらっている。 ・部屋代や食事代等の改定を行ったが、その際もご家族に向けての説明会を開催し、理解していただいた。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日頃から入居者との対話を行い、悩みや不満等を汲み取れるように注意している。 ・契約時や来所時に他の相談窓口（公共機関）などがあることも説明している。又、苦情受付担当者を決め、苦情箱を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングや個別の面談及び、懇親会等で提案や意見を聞く機会を設け、職員間で話し合いながら反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・業務目標設定時や評価時の面談で職員の実績を把握し、向上心を持って働けるよう助言を行っている。又、講習会の受講や資格取得への支援を行い、向上心を持てるよう努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・18歳から60歳代までの幅広い年齢層で募集をかけ、面接時に経験、やる気、人間性を総合的に判断し採用を行っている。 ・勤務者に対しては、勤務希望を確認し勤務表を作成している。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・人権センターよりDVDを借り、勉強会に全職員が参加できるよう、同じ内容で2日間行った。DVD視聴後、グループに分かれ話し合い、意見交換を行った。		
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・実践者研修や管理者講習等へ段階に応じた職員を受講させ、自分の取り組んだ課題等を勉強会で報告している。 ・外部研修案内を回覧して希望者には、研修へ参加できるようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・研修会の開催時は、近隣のグループホームにも声かけし、一緒に勉強する機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に必ずご本人と、ご家族に見学していただいた上で、面談の機会を設け、ご本人の心身の状況や悩み、不安などを理解し把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設見学時や入居相談時には、十分な面談時間を取り、ゆっくり話を聞くようにしている。又、介護で頑張ってきたことに、必ずねぎらいの言葉掛けをするように心がけている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた時は、必要に応じて居宅のケアマネージャーに相談をつないでいる。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・食事準備から後片付け、掃除、洗濯物干しやたたみ等を一緒に行っている。又、季節の行事を職員と入居者が一緒に楽しみ、過ごすことで喜怒哀楽を共有している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・行事(バスハイク、敬老会、お花見会など)にご家族の参加をお願いし、共に行動することで、共に支えあう関係が築けている。 ・定期の病院受診は、ご家族にも付き添っていただくなど協力関係を築いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居者の方によっては、馴染みの方との葉書のやり取りや、一時帰宅、墓参りができるようにご家族と協力し支援を行っている。又、電話等で遠方の方との関係が維持できるように支援を行っている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者の性格を把握し、入居者同士が共に助け合ったり、作業(食事の配膳や洗濯物干し等)を一緒にできるよう工夫し声かけを行っている。又、入居者の性格や相性により座席の配慮も行っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他の施設に退去されたり、病院に入院されている時など様子を伺いに行っている。又、契約終了前に系列病院のソーシャルワーカーを紹介し、医療や介護の問題の相談ができるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・生活歴を確認し、日頃の些細な会話からも望むことや不安を受け止め、希望に添えない場合でも納得いかれるよう話し合いを行っている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族や身近な方、前入居施設や病院等より情報を提供していただき、暮らしの情報シートを活用し、総合的な把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居後は、ケア記録を細かく記入し、状態や現状を全ての職員が、共有して把握できるよう取り組んでいる。 ・各職員が気づいた事などは、その日の申し送り時や申し送りノート等を活用し、情報共有を行っている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者やご家族には、日常的にお話や意見を伺い、計画の作成や更新に役立てている。又、途中変化が生じた場合は、その都度、本人やご家族に相談及び説明を行い、サービスの追加や変更を作成している。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・入居直後はセルフケアチェック表に対応した職員が記録し、日常の様子はケア記録、必要時には申し送りノートに記録し、職員間で情報を共有して統一したケアができるように行っている。又、介護計画の見直しにも反映している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・病院受診や歯科治療の希望がある時や必要時には、受診や住診ができるよう体制を整えている。又、理美容は家族対応や訪問理美容をできるように支援を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・日用品の買い物希望がある時は、近くのコンビニにご本人と一緒に出かけている。 ・地域の催し物や近隣の保育園との交流で行き来をし、地域資源の活用ができるよう計画し、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的受診は、ご家族にも対応してもらい、緊急時は職員が対応し、内容をご家族に報告している。 ・連携病院には、内科を1回/月、その他協力医療機関からも往診をお願いしている。		
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設課長が看護師として常勤しているので、日頃から入居者の体調の変化を報告し、必要に応じて受診を支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院になった場合は、経過や生活内容等を書面にて報告し、入院中の状況を逆に尋ねる等して情報交換を行っている。 ・早期の退院に向けて、主治医や医療ソーシャルワーカー、リハビリ職員等と連携を取っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用者の状態に合わせて、こまめに医師や家族と話し合い、方針を決定して全員で統一して対応している。看取りの指針を策定している。 ・協力病院もあり、体調の悪化に対応できるような体制がある。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員は消防署主催の救命講習にて、応急手当の訓練を受けている。又、急変や事故発生時のマニュアルを作成し、緊急連絡網の整備も定期的に見直している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・推進会議等、地域の方が集まる時に災害時の協力をお願いしている。又、セコムとの契約をし、非常通報時は即駆けつけてもらえるようになっている。 ・年2回の避難訓練を実施し、マニュアルも作成している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報やプライバシーについての勉強会を行い、職員一人ひとり言葉かけや対応に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・個人の希望や悩み等を聞き、意思決定の働きかけを行っている。起床時や入浴前に、ご自分の衣類を選んでもらったり、希望時には、散歩や買物に行ったり、理美容を業者にお願いしたりと、できる限り支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員側の都合や業務優先にならないように、利用者のペースを守ること「待つこと」の大切さをミーティングで話し合い、必要に応じ指導を行い、支援をしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・1～2ヶ月に1度、訪問理美容を利用している。又、希望がありご家族の協力が得られる方は、行きつけの美容院にも出れるように支援を行っている。 ・化粧品や衣類など希望があれば、一緒に買い物に出かけている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の調理や配膳など、その方の能力を活かし、できることに参加してもらえよう支援を行っている。又、嚥下や咀嚼の低下がある方には、お粥や副食を刻んで提供している。職員は、入居者の好きな食べ物を把握し、メニューに取り入れている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスに気をつけ、季節毎のメニューを作成している。食事中は、バランスよく食べられるように声かけや、食器の配置換えを行っている。水分摂取は、食事以外にも時間を決め、夏場など多汗の時期は、ポカリスエットを作りこまめに勧めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時と毎食後、歯磨きの声かけをし実施してもらっている。磨き残しや残渣物が見られる時は、介助での支援も行っている。又、汚れや口臭のある方へは家族に報告後、歯科衛生士による訪問の口腔ケアを利用している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・入居後や退院後の状況により、昼間のみ普通下着に変更したり、排泄チェック表に記録することでパターンを把握し、トイレ誘導により失禁が少なくなるように支援を行っている。失禁の少なくなった方には終日、普通下着への変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質の野菜を多く使用し、食べやすいよう調理方法に工夫をしたり、デザートに寒天やヨーグルト、果物を取り入れている。 ・体操や散歩等も行っているが、それでも出にくい方は主治医に相談し、下剤を処方してもらっている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴希望を伺い、入浴方法、曜日や時間も本人の希望に添って支援を行っている。又、入浴準備(衣類選び)も、一緒に行えるように支援をしている。 ・入居者によっては、同姓介助を行っている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・就寝、起床時間は一人ひとりの習慣を尊重し、朝食時間をずらすなどし対応している。 ・昼寝の習慣のある方は、夜間の睡眠に支障が無い程度で休んでもらっている。 ・加湿器やエアコンを使用し、居室の湿度や温度に気を配っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診記録にて全職員が確認し、薬の内容等も把握できるようにしている。 ・詳細については、申し送りノートに記入し、薬箱にも表示するなどの対策をとっている。 ・症状に変化がある時は、看護師である施設課長に報告している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個人の状態に合わせた役割や、気晴らしのための散歩(室内外)の支援を行っている。 ・縫い物や習字、お謡いなど興味のある方に参加をしてもらい、楽しみの支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日常的に、散歩や買い物に行けるように支援している。 ・年2回バスハイクを実施しており、本人や家族に意見を聞き、行き先を決め家族にも参加協力を勧めている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望される方は、ご家族の了解のもと、お金を所持されている。又、買い物を希望される方には、一緒に買い物に行き、支払をご自分でしてもらっている。 ・個人ノートに、購入後のレシートを添付している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望のある方は、自由に事務所の電話をいつでも使用し、かけることができるように支援を行っている。 ・葉書や年賀状などのやりとりができるように、家族と協力し支援を行っている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間や玄関、食堂には花を飾り、廊下や周囲の壁に習字や塗り絵の作品を飾るなど工夫をしている。 ・日当たりの強い場所は、カーテンを使用し、光や温度に注意している。又、季節によって、加湿器やエアコンなども使用している。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事の席や、テレビの前のソファでは、気の合う方と座れるよう配慮している。 ・個人の時間をもちたい方は、居室で過ごすなど自由にいただいている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各自の居室には、本人や家族と相談し、使い慣れたタンスや椅子などの家具を持ち込んでもらっている。又、壁面などには、ご家族の写真や親しみのある物を飾るなど、自由な工夫の援助を行っている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居間や廊下、トイレ、浴室などに手すりを設置し、車椅子でも対応できる広さがある。 ・新しく入居された方へは本人と家族の同意を得て、居室の入り口や廊下などに案内表示を行い、慣れられた頃や本人の意思によって外すようにしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			